

平成26年2月八戸市教育委員会定例会会議録

- 1 開催日時 平成26年2月20日(木) 午後3時00分
- 2 場 所 市庁本館3階 議会第2委員会室
- 3 委員氏名
- | | |
|----------|---------|
| 委員長 | 武 輪 節 子 |
| 委員長職務代行者 | 築 瀬 眞知雄 |
| 委員 | 岡 本 潤 子 |
| 委員 | 大 庭 文 武 |
| 教育長 | 伊 藤 博 章 |
- 4 職員氏名
- | | |
|--------------|--------------|
| 教育部長 | 佐 藤 浩 志 (欠席) |
| 是川縄文館長 | 小 林 和 彦 |
| 教育部次長兼教育総務課長 | 澤 田 多嘉男 |
| 教育部次長 | 嶋 脇 郁 夫 |
| 図書館長 | 津取場 重 行 |
| 学校教育課長 | 齋 藤 信 哉 |
| 教育指導課長 | 正部家 光 彦 |
| 社会教育課長 | 船 田 泰 寛 |
| 是川縄文館副館長 | 前 田 美智子 |
| 総合教育センター所長 | 井 上 貫 之 |
| 博物館副館長 | 小笠原 善 範 |
| 北地区給食センター所長 | 中 里 親 弘 |
| 東地区給食センター所長 | 板 橋 稔 |
| 西地区給食センター所長 | 清 川 彦 一 |
| 市史編纂室長 | 藤 田 俊 雄 |
| 教育総務課参事 | 尾 崎 雅 祥 |
| 社会教育課参事 | 田 中 勉 |
| 教育総務課副参事 | 小笠原 光 則 (欠席) |

(事務局員) 教育総務課主査 佐藤 正樹

<p>武輪委員長</p>	<p>ただいまから、平成26年2月の教育委員会定例会を開会いたします。 本日の議事録署名は大庭委員を指定いたします。 それでは教育長から、主な会議・行事等について説明をお願いいたします。</p>
<p>伊藤教育長</p>	<p>まず、主な会議・行事等の説明の前にお知らせをしておきたいと思ひます。 すでに今朝の新聞、あるいは昨夜のテレビ等で委員の皆様はご承知のことと思ひますが、是川縄文館、博物館の浜小屋等に関わつて亡失、滅失の事案がありまして、昨日12時30分から記者発表を行いました。 その概要を簡単に申し上げますと、是川縄文館の是川遺跡出土品につきましては、土器6点、土偶5点の計11点、博物館所管の浜小屋の漁労用具につきましては、7点の所在が確認できず、文化庁に亡失届、滅失届を提出したこと。亡失、滅失の時期や原因等につきましては、あくまでも現時点の現状や資料等からの推測の域を出ないことでありまして、その時期等を特定することはなかなか困難であるということもお話しいたしました。 ただ、明らかなことは、重要文化財に対する職員の意識、緊張感の欠如、あるいは管理・保管体制の不備等が1番の要因であったことなどを説明し、市民、国民の皆様にお詫びを申し上げたところです。記者の方からも質問がありましたけれども、今後は報告の体制について、課長レベルで判断するのではなくて、できるだけ教育長まで報告を上げるよう、6月の古文書の事案以来すでに指示をし、実行していることなどをお話しし、今後二度と起こらないように万全を期して参りますということで、昨日の記者発表を締めくくらせていただきました。 教育委員の皆様にも、事務局を預かる教育長としてお詫びを申し上げますとともに、事務局員一同、失われた信用、信頼の回復に努めて参ります。この場をお借りして、ご報告申し上げます。 (会議・行事等について資料に基づき説明)</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>ただいまの説明につきまして、ご質問などありましたらお願いいたします。 (質疑なし)</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>教育長から冒頭に重要文化財についての説明がございましたが、大変残念なことではございますが、今後このようなことが起きないように再発防止策、また、携わる方の意識改革に努めていただきたいと思います。 では、本日は議案の提出がございませんので、報告事項に参ります。はじめに、「東地区及び南郷地区給食センター調理等業務委託業者について」報告を受けることといたします。</p>

齋藤学校教育課長	(資料「東地区及び南郷地区給食センター調理等業務委託業者について」に基づき説明)
武輪委員長	ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いいたします。
武輪委員長	引継ぎがあるということは、現在、業務委託している業者とは違う会社で、新しく4月からメフォスで始まるということでしょうか。
齋藤学校教育課長	現在、東地区は三八五フーズが委託を2年やっておりました。その会社と引継ぎをするということです。
武輪委員長	ちなみにこのメフォスという会社は、こういう調理業務を受託していたり、他にも食品関係を扱ったりするような会社なのでしょうか。どういった業種の会社なのでしょう。
齋藤学校教育課長	もともとこの会社は、病院の病院食を手がけている業者で、現在は盛岡のほうで学校給食にも携わっております。ただ、県内では学校給食はまだ携わっていないということで、県内では初めてということになります。
武輪委員長	はい、ありがとうございました。
武輪委員長	それでは次に、「平成25年度学校教育実践功労表彰について」報告を受けることといたします。
井上総合教育センター 一所長	(資料「平成25年度学校教育実践功労表彰について」に基づき説明)
武輪委員長	ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いいたします。
大庭委員	一つ質問ですけれども、今回の応募団体が4団体となっておりますけれども、その4団体がいずれも上記の表彰対象だったということですよ。
井上総合教育センター 一所長	はい。
大庭委員	例年はどうなのでしょう。もうちょっと応募が多いとか、どういう状況なんで

<p>井上総合教育センター 一所長</p>	<p>しょうか。</p> <p>今年で5年目になりますけれども、毎年大体これくらいの応募になっております。応募された団体から、その資料及び代表の方からプレゼンテーションをさせていただいてということになります。これまででは子どもたちの変容がちょっと不明確ということで応募しても表彰の対象にならなかったというところもございましたが、ほとんどが非常に素晴らしい実践で、実践だけではなくて子どもが成長していて子どもの姿で評価しているというようなことで、どの実践も素晴らしい取組というような形になっております。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>はい、分かりました。感想ですけれども、中沢中のジャズバンド部です。この間、小・中の音楽発表会のときにも確か最後に演奏されていたと思うんですね。ちょっと普通の小・中とは違った、音楽会の中でもちょっと異質だったんですけれども、私はやはり小学校の生徒なんかあの演奏を聴いて非常にいい刺激といいますか、こういう演奏が中学生でできるんだというふうな意味で、いわゆる一般的な吹奏楽部あるいは合唱とは違った雰囲気を持って、一つのインパクトを与えてくれたというふうに思っています。特に小学生にもああいう演奏を聴かせる機会ができたということが、私は良かったなと思っていました。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>私も感想ですけれども、このように5年間続いておりますけれども、教育という中身につきましては本当に幅広く、また、ここの趣旨のところにも書いてありますが、学力であったり心であったり身体的なことであったり、すべてが教育ということで非常に幅の広い中で、この4団体がそれぞれの特色を持っているということが、八戸の教育の縮図のようなことを示しているのではないかと、私もこの選ばれた団体を拝見しまして非常に嬉しく思っております。これから学力に偏るだけではなく、様々な方面から教育というものを八戸市が推進していければいいかなという感想を持ちました。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>それでは(3)に入ります。「図書館古文書の総点検結果及び今後の管理体制について」報告を受けることといたします。</p>
<p>伊藤教育長</p>	<p>昨年6月、図書館の古文書所在不明が判明しまして、その時点で分かっている範囲で公表いたしましたけれども、詳細な調査が必要と判断し、図書館に対して総点検を指示いたしました。昨年9月の定例会で中間報告をし、今年14日に点検作業が終了しましたので、本日最終報告を申し上げます。</p> <p>昨年6月の時点で、約3万点の古文書のうち167点が所在不明と発表いたしました。総点検の結果、不明167点のうち二重登録や所定とは違う場所から発見</p>

津取場図書館長	<p>されるなど計 120 点の所在が確認されました。点検中に新たに所在不明 2 点も判明し、現在の古文書の所在不明は 49 点という結果になり、これらの古文書は紛失したものと判断いたしました。点検の内容と結果の詳細及び今後の管理体制については、津取場図書館長に説明をさせます。</p> <p>(資料「図書館古文書の総点検結果及び今後の管理体制について」に基づき説明)</p>
伊藤教育長	<p>今、津取場館長から詳細な説明がありましたけれども、八戸市民はもとよりですけれども、国民の文化遺産とも言える古文書の紛失という事実、教育委員会事務局を預かる立場として責任の重大さを痛感しております。今後は現物確認の強化策として先ほど館長からもありましたように、全古文書約 3 万点を毎年 1 万点ずつ 3 年サイクルで総点検するなど、古文書の管理・保管に万全を期して参ります。改めて寄贈した方々、市民の皆様にも、この場を借りてお詫びを申し上げたいと思います。</p>
武輪委員長	<p>ただいまの報告、説明につきまして、ご質問等ありましたらお願いいたします。</p>
築瀬委員	<p>質問ということではありませんが、これまで 6 月の総点検の指示以来、9 月に中間報告を受け、そして今回 8 ヶ月に渡る膨大な総点検作業が終わったという報告を受けました。しかしながら、新たな 2 点を含めて 49 点が所在不明という結果になったことは、非常に残念なことであると思います。今後は管理体制を十分にしていくということですので、こういうことのないように、図書館だけの責任ではなくて、教育委員会全体の責任としてお互いにチェック機能を果たしていくようにしていかなければならないと、私自身も責任の一端を感じております。ただ、最後になりますけれども、これまで 8 ヶ月、昼も夜も身を粉にして、一生懸命点検をしてこられた関係者の皆さんには本当にお疲れさまでしたと申し上げたいと思います。</p>
武輪委員長	<p>私も今築瀬委員さんがお話しされたように、今後の管理体制を強化して、今までのようなことがないように、そして携わる者が緊張感を持って臨んでいただきたいと思います。先ほどもありましたように、私たちもその調査をされているときの様子を拝見させていただきましたが、古文書という特殊なものを解読していくということは、本当に一つの文章を読むだけではなくて、大変な労力をかけて調べてこられたと思います。調査された方々を労いたいと思いますし、これからも携わっていく方々が丁寧な定期点検をされて、こういうことがこれから起きないように努めていただきたいと思います。また、私たちも教育委員として見守っていききたいと思います。</p>

<p>岡本委員</p>	<p>先ほどの件と併せまして、お話を申し上げさせていただきたいと思います。先ほど教育長からのお話もありましたけれども、八戸市の教育行政に、私たち教育委員は市民の視点で参画をしておりますけれども、任期中は私もいろいろな事案をこれまでこの定例会の場でご報告いただきまして、市民の立場でそれがどうなのかということは今まで協議していたのが教育委員だと思っております。その中で教育長の先ほどのお話にもありましたように、「丁寧に」という言葉を非常に多くおっしゃっていらっしゃいましたけれども、丁寧にということは、すべての事案及び事業の推進に関して、私は一人の教育委員としての立場で非常に強く感じています。改めるべきことは改めなければなりませんし、謝罪をしなければならないことは潔くするというのも、今まで丁寧にしてきたという感想を持っておりますので、今回の件につきましても、今までの姿勢を崩すことなく、丁寧に進めるということが非常に大事なのではないかと思っております。先ほどの件とこのことに関しましては、これからも市民の皆様からいろいろご質問やご意見やお叱りを頂戴すると思っておりますけれども、すべてに丁寧にお答えし、分かることはすべてお話できるような姿勢で、これからも教育のすべてにおいて、そのように臨んでいきたいなと私自身も思っております。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>私もまだ教育委員としては経験が浅いんですけども、今回のこの図書のことに関しては、所在不明の原因が、照合不足あるいは確認不足、引継ぎの不備とありまして、その対応策が3番に現物確認の強化や配置見直しと示されておりますけれども、これらをきちんとやった上で人為的な部分は解消されていくと思えます。私自身の関わり方も含めて、そういうふうに願いながらこの辺の対応策がきちんととられて、今後こういうことのないようにしていただきたいということ。それから、特に今後の体制の中に(5)原本の破損防止対策とありますが、これからはやはりこの部分が新たに必要になっていく部分かと思えます。特に古文書については、どんどん劣化していくということがありますので、複写あるいはデジタル化というふうなところにも、これを機会に取り組んでいただければと思います。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>それでは、(3)についてはよろしいでしょうか。 では、(4)のその他でございます。事務局から報告事項はございますでしょうか。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>ないようですので、4番の「全国学力状況調査の公表について」に移りたいと思います。まず、教育長から説明をお願いいたします。</p>

伊藤教育長	<p>全国学力状況調査の公表についてでありますけれども、昨年 12 月に突然国の発表があったわけで、マスコミから学校の序列化、点数の公表等について教育長はどう思いますかというのが突然きました。考える時間も無く、私は個人的には一教育長としては、あまり賛成できませんと。学校の序列化というのには、やはり大きな問題があるだろうというふうに考えていますと。市の平均点の公表とか、それは私の一存では回答できませんのでいずれというような形で申し上げました。</p> <p>同じように 12 月議会に議員さん方からも同じような質問が出されましたので、そのとき答えたものが手元にあるのですが、市教育委員会として各校の結果の公表については、教育長としては学校や地域の序列化に繋がる懸念があることや、点数を高めるために偏った授業を展開することが危惧されるなどの理由から、公表しない方向で考えておりますと。教育委員会といたしましては、今年度中に市の小・中校長会並びに市の連合 P T A 等の意見を踏まえ、来年度の方針を検討して参りますとお答えしています。</p> <p>したがって当初から、この 2 月の定例教育委員会において、教育委員と忌憚のない意見を交わしながら、非公開で密室でということではなくてオープンな議論をしながら、最終的に教育委員会の方向を決定したいと考えていたんです。そう考えているうちに、タイムリーに 2 月 3 日付けで県教委の方から、全国学力学習状況調査の結果公表及び土曜授業の実施に関する調査という依頼文が届きました。締切りが 3 月の中旬になっております。したがって、今日の定例会で決定するかしないかについてはまだ時間がありますので、今日は忌憚のない意見を交わし合いたいと。そのため、嶋脇次長に小・中学校の校長会の思い、今現在の意見、それから連合 P T A の意見等を収集してほしいという指示をいたしまして、本日アンケート結果が机上に上がっていると思います。どうぞ忌憚のない意見を出し合いながら、現場も私どもも良い方向、良い結論を導き出したいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。</p>
武輪委員長	<p>ありがとうございます。皆様のお手元にこの公表についてのアンケート調査の結果が渡されているかと思いますが、この調査に携われました嶋脇次長の方から補足説明がありましたらお願いいたします。</p>
嶋脇次長	<p>全国学力学習状況調査の学校別の結果については、先ほど教育長からもありましたけれども、文科省の方では公表しないという立場でずっときていたんですけれども、いくつかの自治体で公表すべきだという動きがあったのを受けた形で、昨年の 11 月 29 日に下村大臣が、調査結果の公表の取扱い見直しというものを発表いたしました。簡単に言うと、学校別の結果の公表については、市町村の教育委員会が基本的に判断するという中身でありました。そして、公表にあたっての</p>

配慮事項として、当該年度の平均正答率のみを公表するのではなく、教育委員会としての学校への支援策を公表するというのもセットでしなさいというふうなことであります。

それを受けて、市教委の判断材料にするために、小・中学校の校長会、それから市連Pの会長さん方ということで、実際は小学校の校長先生方、中学校の校長先生方、それから各学校のPTAの会長さんにアンケートを実施いたしました。アンケートの項目は2点でございます。市教委が学校別の点数を公表することについて賛成か反対か、2点目は県教委が市町村別の平均点を公表することについて賛成か反対かという2点でございます。

それでは、アンケート結果について簡単に説明したいと思います。学校別の公表については、資料にありますように、小学校、中学校とも反対という意見が多くございました。小学校は96%、中学校は88%となっております。

反対の理由としては、公表することによって学校の序列化につながる。過度の競争につながる恐れがある。過度の競争になることによって指導に偏りが出てくる。いわゆるテスト至上主義と言いますか、点数さえ取れば良いという授業をやってしまうのではないかという危惧がある。そういうふうなことが、本来学校は子どもたちの楽しい場であるにも関わらず、子どもたちにプレッシャーをかけて楽しい学校を阻害するのではないかという意見もありました。それから、地域格差と言いますか、学校格差と言いますか、どこどこの学校は良い学校で、どこどこの学校は駄目な学校だと。そうすると同じように、どこどこの地域は良い地域、どこどこの地域は駄目な地域だというふうな差別化されるのではないか。そういった中には、経済力とか家庭教育力とか、そういうふうなことも問われてしまう恐れがあるということでございます。また、小規模学校においては、市内には学年1人か2人の学校もありますので、学校の平均点だといっても実質はその子の生の点数が出てしまう可能性があって、個人の情報が特定されてしまうのではないかという恐れもあるということもありましたし、学力は教育の一面だけであるので、それだけで判断するのはいかがなものかということもありました。

賛成の意見としては、説明責任を果たさなければならないのだというものがありました。

PTAの会長さんの意見は、ちょうど半々という形になりました。賛成が50%、反対が50%ですが、この中には学校の序列化、過度の競争になるのであれば反対という条件付きの賛成もございました。それを除くと賛成が40%、反対が60%というような状況になります。

賛成の意見としては、子どもや教師の意識の高揚につながるのではないか。保護者として自分の学校の水準がどの程度なのかを知りたい。それから競争ということは必要なものであるという意見。それから入試の的確な資料になるのではないかということで、我が子の学習状況の位置付けを知る手掛かりにしたいという

保護者の願いが感じられました。入試その他については、中学校のPTA会長さんからの意見が多かったと思っております。

反対の意見は、校長先生方の意見とほぼ同じですけれども、子どもや教師の負担増や、もしかしたら保護者から「何をやっているんだ」という圧力がかかるのではないかと保護者自身で心配しているところがあるということもありました。

次に2枚目になりますけれども、市町村別の公表について賛成か反対かというアンケートに対しましては、これも小・中ともほぼ同じ結果で、反対が約半分、51%と52%ということになっています。

賛成の意見としては、自校の実態や市内での位置付けを知ることができる。それから、本市の教育施策の指標になるのではないかとということ。それから、教師の力量アップにつながる。そしてまた、説明責任というようなことが出ておりました。

反対意見としては、各校の実態に合った授業改善に活用すればいいだけのことなので、何も公表する必要はないのではないかとということ。それから、市町村によって塾だとか家庭環境の差が大きく出るものを比較するのはいかなものかというものもありました。

PTA会長さんの意見としては、ここは大きく変わっておりまして、賛成が74%ということで4分の3を占める形になっております。

賛成意見としては、何回も出てきていますけれども、自分の学校の水準を知りたい、全国と比べたい、県と比べたい、市と比べたいというふうなこと。それから、市教委が実態を把握して指導につなげる必要があるのではないかとということ。そして、次の目標を設定して対策を練ることができるのではないかとという意見もありました。

反対意見としては、市町村別の序列化につながるのではないかと。教育委員会の指導が強まるのではないかと。市町村単位を比較する理由や正当性は何かと。また、学力だけを目標とするのなら義務教育の意味がないのではないかと。これは先ほど述べたように、学力は教育の一側面であり、そこだけを捉えて序列化されていくというのはいかなものかというふうなことになっております。

このようにして見ると、どちらにしても賛成の主な理由は、説明責任を果たさなければならない、教師の授業力アップにつながる、自校や子どもの水準を把握したい、児童生徒の意識の高揚を図りたいということが主なものになります。反対の理由としては、学校の序列化、過度の競争につながる、地域格差というようなことが出ております。この辺りが話し合いの論点になるのかなと思います。このようなことも踏まえながら、忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。

齋藤学校教育課長

ただいま嶋脇次長からアンケート結果について報告いたしましたけれども、私の方からはアンケート結果を踏まえて、市連Pの役員の方々、それから校長会の

役員の方々と直接お会いして意見交換をして参りましたので、その内容について併せて報告したいと思います。

順番が逆になってしまいますが、まず市連Pの役員の方々と意見交換した内容を紹介します。まず、公表について反対という意見の主なものです。大変有り難い意見だなど思った点も何点かあります。一つは、我々保護者は学校の応援団であると。公表となれば、学校批判の材料になり得る。そういったところが心配だと。さらには教師の負担が増えるのではないかと、そういうご意見がありました。また、この公表ということについて、公表の意義がどこにあるのかと。本来この学力テストについては、授業改善という目的があるのではないかと。それぞれ学校事情がある中で、それを同じ土俵で比べるということに意義を感じないといった声もありました。それからもう一つは、点数を上げることに学校が一生懸命になることは、それは大事なことだけれども、それによって教師一人ひとりの負担が大きくなってしまわないかと。ひいてはそれが学校格差にもつながるのではないかとといった意見がありました。

それから賛成という意見の中には、これは先ほどの嶋脇次長の話と重複するんですけども、やはり自分の子どものレベルがどの程度なのかを知りたいということで賛成にしたということでしたけれども、ただ後でそのことについては、公表によってどのようなデメリットがあるかといった部分については深く考えていなかったと。もし、そのデメリットの部分を知っていれば、反対であったという意見がありました。その方の話だと、たぶん賛成と書かれた保護者のほとんどは、テストをやったのであればそれを公表すべきだろうと、あまり深く考えていないもとの回答したものだろうと。よって、先ほどのデメリットの部分を知っていれば、やはり反対という意見になるのではないかなといった声もありました。

続いて校長会の役員の方々のご意見です。実は小学校長会のほうは予定はしていたんですが、大雪の関係で小学校長会とはまだ意見交換できていませんけれども、中学校長会と意見交換をした内容をご説明します。

まず、学校ごとに公表とした場合は、この調査の意義等について、これまで以上に保護者にしっかりと説明する必要があるのではないかとということです。それから他には、生徒、保護者、地域によっては、公表内容の捉え方がそれぞれ違うのではないかと。一歩間違えると、地域格差の基につながるのではないかとといった声もありました。もう一つは、平均を公表するとなると、保護者は単に平均から上か下かといった評価につながってしまう可能性がある。学年によって様々な事情があり、1年生からの伸びという視点でも評価していくことが大切ではないかということがありました。あとは、単に数字のみの公表に陥らないように工夫していく必要があるのではないかとことが出されています。ただ、やはり保護者の立場になって考えたときには、それぞれの自分の子どものことを考えれば、学力の面である程度の情報が欲しいといった部分は理解できる。よって、そ

<p>武輪委員長</p>	<p>の公表の内容について、工夫していくことが必要ではないかといった声もありました。以上が中学校長会の内容です。</p> <p>ありがとうございます。今のお話を聞いていてもたくさんのご意見があり、様々その立場によっても考え方が違ったりしているわけですが、このことについて委員の皆さんからご意見を伺いたいと思います。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>この全国学力学習状況調査は、学力だけではないんですよね。市教委が学校別の点数を公表するという点については、12月の定例教育委員会の場でもちょっと話題に出ましたので、その場でも私は反対であるというお話をしております。そのときに教育長からも12月議会での様子の報告も受けています。理由はたくさんあるのですが、皆さんからも後で話されると思うんですけども、今回配布された資料の小・中の校長先生方の反対のキーワードにすべてがあると、一つだけではなく、すべてそうだというふうに思います。ただ、教育長の答弁では、序列化への懸念というのと、点数を高めるために偏った授業になるのではないかという懸念、この2つの大きな懸念を議会で示したわけです。それについても同感であります。それからこの前も言ったんですが、これは小学校6年生の評価、それから中学校3年生の評価であって、それだけで学校全体を評価していいのかという問題もあるということも12月にお話ししております。あとは、やはりどうしても人間ですから、公表するとなれば管理職へのプレッシャー、管理職へのプレッシャーということは先生方へのプレッシャー、先生方へのプレッシャーということは子どもへのプレッシャーというふうになっていく危険性があります。</p> <p>私は何よりも今までの議論で欠けているのではないかなと思うのが、大人の議論になっているような気がしているんです。子どもたちはどうなるんでしょうかといったところを、やはり大事に考えていきたいと思うんです。この学校別の点数を公表することによって、子どもたちは良くなるんでしょうか。私は良くなりませんと思います。つまり、子どもたちの望ましい成長に資することはないというふうに考えています。やはり、子どもたちはどうなるんだろうかということが一番に考えていくのが、学校教育の基本じゃないかなと思います。大人の都合とか思惑だけによって、子どもたちの未来を惑わすことのないようにしたいと思っています。それは狭い意味での学力、あるいは見える学力だけを問題にしているような気がしていて、もう少し見えない学力、あるいは生きる力というのはどういう力なのか、それから人間力というのはどういう力なのかを、もうちょっとPTAも含めて、お互いに話し合っていく場があれば、このPTAの方々の意見もいろいろ動くんじゃないかなと私は思っているところです。</p> <p>過去にこういう過度の競争、序列化、数値が一人歩きして、詰め込みの授業が行われ、歪んだ教育活動があって、ゆとりのない学校がつくられたときに何が起</p>

きたかという、校内暴力とか非行、いじめといった反社会的な行動、あるいは破壊活動もありました。それから、非社会的行動と呼ばれている引きこもりとか不登校といった問題、あるいは昔の言葉で三無主義という無気力、無関心とかです。そういったどうせ自分は駄目なんだといったことになりかねない。過去にそういう道を、八戸でも嫌というほど経験したわけです。私はそういった道も思い出してほしいなと思っているんです。そういった子どもがどうなるかといった観点を是非もう少し考えながらいきたいものだなと、そういった点で絶対に子どもたちのためにはならないというふうに考えています。

最後になんですけれども、問題はこの学校別の点数の公表については、小・中の校長先生方は4校を除いてあとの先生方は危険だというふうに言っているわけなんですけれども、PTAの会長さん方が半々だということは、やはり先ほど嶋脇次長から説明があったのは私もそのとおりだと思って見ていたんですが、学校比較なら反対という条件があるんですよね。つまり、これは単純にこれだけを見るのではなくて、もっと説明をすればちゃんと分かってくれるような部分があるような気がするんです。反省点としては、いきなりアンケートを採っているの、要するに説明をして、これはこうなります、こういうふうにやってきました、学校ではこう使っていますとか、そういったことがあればもうちょっと違った結果になったかもしれないなというふうに思っています。あるいは、このPTAの賛成意見の中に、意識の高揚にもなると書いていますよね。意識の高揚とか地域格差の解消になるということで賛成というのですが、本当に公表すれば意識が高揚して地域格差が解消されるのでしょうか。反対じゃないかなと思うんです。つまり、そういったところもこれからの課題としては、結論を出すのもいいんですが、説明を丁寧にするということは非常に大事なことだなと思います。

目的に、学校における児童生徒への教育指導の充実のためにやっていると言っているんです。それから、学習状況の改善に役立てると目的でちゃんと言っているわけですから、そういったことは各学校で実際に一生懸命、先生方は取り組んでいるわけですよ。とてつもない時間をかけて分析して、そして先ほども話がありました経年で追っているわけです。小学校であれば1年生から6年生までどういうふうに変わっていったかということも、他の八戸市でやっている学力テストでもやっています。ですから、そういった面でも、学校で一生懸命努力しているのを無にしたいくないなという気持ちがあります。

武輪委員長

ありがとうございます。他にございますでしょうか。

大庭委員

まず最初に、各市町村教委単位で公表してもいいというような動きの中で、全国的には公表するというふうな教育委員会もおそらく出てくるかと思います。そういう流れの中で、小学校長、中学校長、保護者の意見を踏まえ、教育長がこう

いうオープンな場で話し合いながら集約していくということを表明されて、そしてこういう場を持っていただいたことは、私は大変有り難いと思っています。もしこういう場がなければ、どちらの意見もあるかと思いますのでどちらになったとしても、何でこうなってしまったのと。もし、八戸市教育委員会が公表をしないという意見になったとすれば、他では公表しているのになぜ八戸市は公表しないのとなったときにきちんと説明できる。そういう説明責任を果たすというためにも、こういう場でそれぞれの委員がオープンに話し合う場を設けたということは有り難かったなと思っています。

そして私個人の考えですけれども、築瀬委員とだいぶ重なる部分もあるのですが、前回もお話しましたが、まず基本的に市教委として各学校の平均点を公表することには反対であるという考えです。その理由としては、この資料等を見てもそうなんですけれども、まず1点目として挙げるのは、小学校・中学校の校長先生方、あるいは保護者に共通している項目の中で、特に学校の序列化、それから数値の一人歩き、それから地域の格差、こういうふうなことを考慮すべきという点で、私もまったく同じ思いを持っているということです。特に数値、これは平均点だけの問題です。本当に点数だけの問題なんですけれども、その数値が一人歩きをしてしまうと、そのことによって各小学校・中学校が抱えている、地域から要望されている、あるいは取り組んでいる課題が置き去りにされてしまう可能性があるんじゃないかと。最も大事な本質的な部分が置き去りにされてしまうという怖さがあると思っています。平均点ではなくて、あくまでも個々の生徒、この辺は築瀬委員とも重なるんですけれども、個々の生徒への対応が重要なのであって、各学校が度数分布を捉えて、それぞれいろんな子どもたちがいますので、その度数分布を踏まえて各層への取り組みをします。各学校ごとにそういう取組をしていくと、それがここで行われる学習状況調査を活用するということにつながっていくと私は思っております。やはり個々の生徒にどのように対応していくのか、個々の生徒をいかに支えながら目標を持たせていくのか、生き方を考えさせていくのか、やはりここに重きを置くべきだということです。

2つ目としては、八戸市教育委員会が進めている地域密着型教育、この中で各校は自分の資料を得るわけですから、その各校が自校の状況に応じて対応すべき要素であって、数値が優先されるものではないというふうに思います。例えばこの回答の中にもあったんですけれども、学校選択とか、中学校の場合は高校と違って学校選択ということはまずないと考えていいと思いますけれども、学校選択あるいは入試に関わる資料として使うということであってはいけないと思います。各校の置かれている状況、あるいは求められているものに対して取り組んでいる各校の内容、繰り返しになりますけれども本当にこれを大事にするべきだと考えます。あくまでも子どもたちの将来を考えて、子どもたちの意欲とか興味、関心、これを支えながら、言葉は古くなっているのかもしれませんが、全

人教育と言いますか、人間性の育成、人間性という少し抽象的ですので私は勝手に「じんかんせい」と言っていますけれども、そういう「じんかんせい」を育成していくということを忘れてはならないと思います。

ただ、公表することに反対と考えた場合に、特にPTAの会長さんたちの賛否が半分ずつに分かれています。その中で、賛成の中のポツの一つ目の中で「自校の水準把握」「指導の見直し」ということが挙げられています。公表することによって、例えば指導の見直しが図られるのではないかということなんですけれども、この点についてはやはり各校が自校の状況を踏まえて、保護者に説明責任を果たしながら日常的な教育活動の中で取り組んでいくべきことだと思います。先ほど築瀬委員からもあったように、この授業改善、指導の見直し、これらは日常においてなされていかなければならないものというふうに考えます。ですから、数値の公表があったから、指導の見直し、授業改善に直接つながっていくということよりも、これはもう今取り組まれていることでありますし、日常的なこととして公表がなくてもなされていくべきものだというふうに考えます。確かに公表されることによって、指導の見直しが図られるという要素もあるかと思うんですけれども、これは公表しなくても日常の中で行うべきものだと思います。

例えば、私が在職中に言ったのは、3Kからの脱出ということをよく先生方にお願ひしました。3Kというのは、個人の経験、勘、慣習です。どうしても先生方は自分の持ったクラス、そこに内向きになってしまうと。そうでなくて、自分の持っている経験、勘、慣習に縛られるのではなくて、内向きになるのではなくて、もっともっとオープンにしましょうと。そして良いところはどんどん先生方がお互いに吸収しましょうと。そういう意味で3Kからの脱出ということなんですけれども、これがやはり日常の生活の中で、先生方の研修の一環としてそれが絶えず行われていけば、私は公表をしなくても授業改善、指導の見直しはなされていくものだと考えております。そういうことで、やはり子どもたちをどう成長させていくかということを考えて場合には、やはり公表しないという方向で私はいいのではないかと考えています。

岡本委員

皆様ご承知のとおり、法律で学校ということは、小学校、中学校から始まっているのではなく、幼稚園から始まっておりますけれども、同じ学校であっても唯一違うのが教科書がないというのが幼稚園であります。小学校からはすべて教科書で指導がなされていきますので、大変個人的な意見、感想でございますけれども、小学校、中学校以上に試験、テストがあるというのは、ある意味大変羨ましいというふうにいつも思っております。それはなぜかと申しますと、それを見ると、見える学力の部分が見えるということですが、一生懸命教育をしておりますけれども、それがどうなのかということが見えない。それが見えるようにするというのが至難の技でして、その意味においては試験があるということは大変羨ま

しいなといつも思っておりました。しかしながら、見えないものを見ていくという力をやはり教員は持たなければいけないと常々思っていますし、それをどうご理解いただくかということ常々考えなければいけないということも一つ考えております。

そういう意味におきましては、築瀬委員とまったく意見が同じでございます、重なるので申し上げますけれども、これらの意見をすべて見ていきますと、別に地域の序列化が図られても子どもたちはそんなに、大人が騒いでいるだけで子ども自身にとってのメリットはないのではないかなというふうに私も思っております。子ども目線というもので、やはり何のためにこれをして、何のためにこれを続けていくのか、そしてなぜ分析をするのかということ、それぞれの目的がありますので、それをもう一度見直すことと、そしてそれをどう取り扱うのか、どう理解してどのようにするのかということにつきましては、教育長も常々オープンな形でということをお話ししておりますし、このような場があることも大事だと思いますし、また、委員も勉強会を開いておりますので、その中で改めてこれらの参考資料を基に様々な議論していくということと、あとは教育委員会全体で考えるという姿勢が大変大事なのではないかなと思っております。ここで公表することがどうだということは申し上げますけれども、これらを参考にさせていただきまして、私自身も考えさせていただきたいと思っております。子どもの姿を信頼して、子どもの伸びしろを信頼して、教育を進めるということはなかなか難しいことですし、教員の側はどうしても不安になるんですけれども、そこがやはり弊害になっていくんだらうなということも感じております。しかしながら、やはり学校教育の主体は子ども自身であるということを私自身も忘れずに、これからもこのような問題については考えていきたいと思っております。

武輪委員長

私からも最後に、保護者からすると、もちろん学期ごとに通信簿というのは持ってきても、我が子が学校でどうなんだらうということを知りたくて、こういうふうなアンケート結果になったんだらうなと感じておりますが、やはりこの学校別の点数を公表するという点に関しては、十分に考えなければならぬというふうに思っております。この市連Pのアンケート結果は、ちょうど真っ二つに分かれていますので、保護者は賛成意見が半分あるんだらうというふうに見えてしましますが、先ほど委員さんそれぞれからも単純にこれがこの答えだけではなくて、そのデメリットがあればとか、いろんなもっと深いところを知れば、保護者の方々もたぶん納得されていくと思いますので、単純なところだけでなく、やはりいろいろ説明しながら、保護者にも納得していただくような形で公表について考えていきたいと思います。

たくさん意見が出されましたので、事務局で整理していただいて、後日臨時会を開いてこのことに関しては決定していきたいと思います。よろしく願いいた

	<p>します。市町村別の平均点についても、臨時会のほうでやらせていただきたいと思います。</p>
武輪委員長	<p>それでは最後にその他ですが、委員の皆様方から何かございますでしょうか。</p>
武輪委員長	<p>それではこれを持ちまして、平成26年2月の教育委員会定例会を終了いたします。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">(午後4時19分終了)</p>